日中両国語の連体修飾に関する比較研究

汉日定语比较研究

〔日〕山田留里子

43

北京大学出版社

PEKING UNIVERSITY PRESS
1902

ISBN 7-301-04296-5

9 787301 042960 >

ISBN 7-301-04296-5/H · 0482 定价：15.00元

H043
S21
929

汉日定语比较研究

日中両国語の連体修飾に関する比較研究

〔日〕山田留里子 著

A0914111

北京大学出版社
北 京

著作权合同登记　　图字:01-1999-2996

图书在版编目(CIP)数据

汉日定语比较研究/(日)山田留里子著．－北京:北京大学出版社,1999.11
ISBN 7-301-04296.5

Ⅰ.汉…　Ⅱ.山…　Ⅲ.定语-对比研究-汉、日　Ⅳ.H043

中国版本图书馆 CIP 数据核字(1999)第 44727 号

书　　名:**汉日定语比较研究**
日中両国語の連体修飾に関する比較研究
著作责任者:〔日〕山田留里子
责 任 编 辑:程茂亭　田秀玲
标 准 书 号:ISBN 7-301-04296-5/H·0482
出　版　者:北京大学出版社
地　　址:北京市海淀区中关村北京大学校内　100871
电　　话:出版部 62752015　发行部 62559712　编辑部 62752032
排　版　者:北京华伦公司排版部 62756343
印　刷　者:北京大学印刷厂
发　行　者:北京大学出版社
经　销　者:新华书店
850×1168 毫米　32 开本　5.25 印张　138 千字
1999 年 11 月第一版　1999 年 11 月第一次印刷
定　　价:15.00 元(平装)

第一章　連体修飾構造

本章では、連体修飾構造について確認を行うことによって、日中両国語を対照とする問題の所在を分析する。

1.1　定語(連体修飾語)の定義

1.1.1　連体修飾語と連用修飾語の区分

「定語」について、朱德熙《语法讲义》[1)]では、次のように説明している。

> 一般说来，体词性中心语前边的修饰语是定语，谓词性中心语前边的修饰语是状语。界限好像很清楚。但实际上定语和状语的区分不这么简单，因为：第一，体词性成分有时受状语修饰，例如："刚星期三"、"就五个人"。第二，谓词性成分有时受定语修饰，例如："群众的支持"、"温度的下降"。可见我们不能光凭中心语的性质来区分定语和状语。除了中心语以外，我们还要考虑修饰语的性质以及整个偏正结构所处的语法位置。(一般に、体詞性中心語の前の修飾語は連体修飾語であり、述詞性中心語の前の修飾語は連用修飾語である。境界線ははっきりとしているようでありながら、実際には、

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

連体修飾語と連用修飾語を区分することはそれほど単純なものではない。なぜなら、まず一つには、体詞性の成分でも連用修飾語の修飾を受けることがある。たとえば、「やっと水曜日になったばかり」、「5 人だけ」などである。また一つには、述詞性の成分でも連体修飾語の修飾を受けることがあるからである。たとえば、「大衆の支持」、「温度の下降」などである。よって、中心語の性質だけを手掛かりに連体修飾語と連用修飾語を区別することはできない。中心語の他にも、修飾語そのものの性質や偏正構造全体の置かれている文法的位置を考慮しなくてはならないのである。)

要するに、ある偏正構造における修飾語が連体修飾語なのか連用修飾語なのかを決めようとする場合に、1 中心語の性質　2 修飾語の性質　3 偏正構造がどんな場所で用いられているか、この三項に注意を払わなくてはならないのである。

それでは、ここで言われている1—3 項について、以下の例によって確認しておくことにしよう。

1　刚星期三(やっと水曜日だ)

2　群众的支持(大衆の支持)

3　加以仔细的调査(詳しい調査を加える)

4　仔细地调査了情况(詳しく状況を調べた)

5　仔细的调査很重要(詳しい調査は重要である)

例文 1のように、中心語の性質だけからみて、“刚”を連体修飾語とすることはできない。“刚”は連用修飾語であり、名詞性の中心語をもつものが連体修飾語になるとは、すぐには決まらないのである。

また、例文2で、"支持"が動詞だからといって、"群众"が連用修飾語だとも言えない。この場合、"支持"はすでに名詞として働いているため、"群众"は、連体修飾語である。

さらに、例文3,4,5をみると、"仔细的"という部分が、3では連体修飾語になり、4では、連用修飾語になっている。5では、「詳しい調査」だとすると連体修飾語、「詳しく調査すること」だと連用修飾語になる。

例文1—5から、はっきりとしたことは、修飾語の性質やその修飾連語がどのような位置で用いられているのかを全体的にみて、はじめて、連体修飾語なのかどうかがわかる、ということである。

よって、我々は、定語(連体修飾語)について、これら三つの観点を頭にいれて、考察をすすめていくことにする。

1.1.2　構造助詞"的"

"结构助词"(構造助詞)の働きは、語と語を結び付け、ある文法構造関係をもつフレーズをつくることにある。現代漢語で軽声に読む"de"には三種ある。

"的""地""得"である。

本書においては、定語とその中心語を結び付ける定語の文法的マーカー"的"について述べる。

実際には、構造助詞"的"の使用については、刘月华等《实用现代汉语语法》が詳しい。

その中で、刘月华は"的"の使用について以下のように説明している。[2)]

> 定语后常常用结构助词“的”，即“的”是定语形式上的标志，但不是一切定语后都要用“的”。定语后是否用“的”，与充任定语的词语的性质以及所表示的语法意义有关。（定語の後にはよく構造助詞“的”を伴い、“的”は定語の形式上のマーカーであるが、すべての定語の後に“的”を伴うわけではない。定語の後に“的”を伴うかどうかは、定語になる語句の性質とその表す文法的意味とに関わる。）

要するに、定語の後には、よく構造助詞“的”を伴うが、すべての定語が後に“的”を伴うというわけではなく、定語の性質と文法的意味とに関わっているのである。

1.2　問題の所在

まず、次の例文をみることにする。

1　パンを焼く娘（烤面包的姑娘）

2　父から聞いた話（从父亲那里听来的故事）

以上1,2は、以下1’,2’の装定(junction)である。

1’（その）娘はパンを焼く。

2’父から話を聞いた。

1の動詞は、修飾部の「パン」と被修飾部の「娘」をそれぞれ〈対象〉、〈動作主〉という格で統括している。2の場合も、動詞が格を統括している。

それでは、次の例文はどうであろうか。

3　パンを焼く匂い（烤面包的气味）

4　幽霊が出る話（闹鬼的故事）

2と4の共通の被修飾名詞「話」は、2では修飾部の動詞「聞いた」に対して〈対象〉という格でかかわっていたのに対し、4の「話」は、修飾部のどの要素に対しても格関係を成り立たせていない。1や3においても同様のことが言える。

寺村秀夫氏の言葉を借りると、1,2は「内の関係」、3,4は「外の関係」という。1—4の中国語では、定語のマーカー“的”を伴っている。

5 「知れはしないという安心と、知れたってかまうものかという度胸とが、二つながらKの心にあったものとみるよりしかたがありません。」(はじめに 7の再録)(以为不会被发觉的舒坦心情,和发觉了也没有什么关系的胆量,同时存在于K的胸中,对于他,除了这样看以外,没有别的办法了。)

6 「危険はいつ来るかわからないという事だけは承知していてください。」(はじめに 8の再録)(危险说不定会在什么时候来到,这一点要请你了解。)

例文5,6とも「外の関係」で、日本語では「という」を付加することによって、連体修飾語となっている。中国語訳をみると、例文5では、“的”を伴った定語となり、それが「という」と相対応している。しかし、例文6では、もはや「という」と“的”に対応関係はない。よって本書では、連体修飾の対象を従来の「格」関係にもとづく「内の関係」、「外の関係」におくのではなくて、“的”と「という」を連体修飾のマーカーと考え、各々の言語の特徴を探ってみる。

〔注〕

1)P.140—141

2)P.281

第二章　連体修飾の構文的特徴

本章では、連体修飾のマーカーである中国語の"的"と日本語の「という」を軸にして、具体的な分析を行なう。

2.1　"的"と「という」について

さて、連体修飾には、大きく分けて二つある。被修飾名詞が修飾部の中で、一定の格(case)に立っているものといないものである。[1)]例文をあげると、前者が1、後者が2である。

1　母に打った電報(打给母亲的电报)

2　すぐ帰るという電報(说马上回去的电报)

日本語の文法では、例文2のような修飾部が被修飾名詞(つまり底の名詞)の内容を表す時、「という」を介在させるという構文的制約がある。そして、底の名詞が発話や思考に関するとき、及び「修飾部のムード」が高いときには、この「という」の介在が強制的になる。[2)]例文2をみると、日本語の「という」に対応しているのは、中国語の"的"である。

3　私人资本主义企业也应当试行这种办法,以达到降低成本、增加生产、劳资两利的目的。〈毛〉(私的資本主義企業で

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

も、この方法で原価を引き下げ、生産を増大させ、労資双方の利益をはかるという目的を達するべきである。)

4　从他的性格，也可以看出是受继母教养的结果。〈心〉(彼の性格からして、たしかに継母に育てられた結果とみることもできるようです。)

例文 3，4とも一定の格に立っていない連体修飾であるが、例文3では、“的”と「という」がうまく対応している。例文 4では“的”があるにもかかわらず、「という」が介在していない。3の修飾部は、底の名詞である“目的”の内容を説明しているが、4の修飾部は“结果”の内容を表していない。これから言えることは、底の名詞の内容を修飾部が表すときには、“的”と「という」の対応がみられ、その内容をもたなければ、“的”を「という」に翻訳する必要はないということである。ただし、このような特徴をもつ名詞は限られたものである。[3)]

5　当即给我一个答案：请搬来吧，迟点早点都没关系。〈心〉(いつでも引っ越してもさしつかえないというあいさつを即座に与えてくれました。)

6　心里都有一个想法，以为父亲的病总归是治不好的。〈心〉(父はどうせ助からないという考えがあった。)

例文 5，6ともに日本語の「という」が中国語では“的”に訳されていない。

5'　＊当即给我一个请搬来吧，迟点早点都没关系的答复。

6'　？心里都有一个以为父亲的病总归是治不好的想法。

無理に定語に訳そうとして得られた5'は非文であり、6'はインフォーマントによると、何かぎこちなく、しっくりこないとい

う。日本語では「修飾部のムード」が高いとき、「という」を介在させることによって成り立つが、中国語では“的”を介在させることができず、構文的に変えていく必要があると思われる。それでは、翻訳する際、どういう「ムード」をもつものが定語内におさまり得るのか。5,6では、「ムード」をもつものとして“吧”、“总归”が推測される。

本章では、中国語の“的”と日本語の「という」の対応をベースにし、被修飾名詞の分類による分析を通し、“的”と「という」の対応関係を考察する。

次に、被修飾部の「ムード」による分析を通し、各々の言語の連体修飾の限界を考察する。最後に、連体修飾の中におさまり得る比較文とはどういう性質かをみる。

2.1.1　被修飾名詞からの分類

7　私は今晩の夜行列車で帰りますという返事を兄に出しました。(我回信给哥哥说今晚坐夜车回去。)〈关〉

8　彼女は夫を理解する(という)能力が乏しかった。(她缺乏理解丈夫的能力。)〈关〉

9　鳥が空を飛ぶ姿は実に見事だった。(鸟儿飞翔的姿势美极了。)〈关〉

寺村秀夫氏によると、7のような発言、思考を表す名詞には必ず「という」を必要とし、8のような能力や事実など「コト」を表す名詞の場合には、「という」を付けても付けなくてもよく、また、9のような感覚を表す名詞には「という」を必要としないという。ただし、これには修飾部の動詞や形容詞の言いきりが現在形ま

たは過去形で終わらなければならないという条件がある。[4)]

さて、7—9の中国語をみると、8,9では“的”を用いており、7では用いていない。なぜだろうか。ここでは、被修飾部の名詞の分類から、考察していく。

2.1.1.1 「という」を必要としない名詞

まず、例文をみてみよう。

10　子供が笑っている写真（孩子笑哈哈的照片）

11　彼が歌っている絵(他唱歌的画)

12　幅の細い帯を後で結んでいるその人の後姿を思い出した。「明」(浮现出了那个人系着一条窄腰带,背后松松地打了一个结的样子。)

13　彼が階段を降りてくる音がした。（听到他下楼来的声音。)

14　彼がゲエゲエ吐く声がした。（听到了他哇哇的呕吐声。)

10—14まで、感覚を表す名詞であり、日本語では「という」を必要とせず、中国語では“的”が必要である。さて、これらの名詞について共通するのは、「誰かの」、「何かの」姿であり音であり、動作主がはっきりしていることである。例えば、13について言うと、「彼が階段を降りてくる音がした」は「彼の階段を降りてくる音がした」というように修飾部の「が」(格助詞)は「の」(格助詞)に置き換えることも可能である。これを中国語で考えると、“他的下楼来的声音”とも考えられ、“声音”は彼のものであると特定し、その“声音”はというと「彼が階段を降りてくる」という音だと限定しているのである。また、寺村秀夫氏によると、以下のこ

とが言えそうである。

この種の連体修飾構文に似たことが、英語にもある。“sound”、“picture”、“taste”などの名詞にその内容を表す言葉を修飾の形で付けようとすると、“that”節の形はとらず、“of～ing”の形をとるようだ。動作、変化の主体を表す必要があるときは、名詞をそのまま“ing”の前におくか、所有格の形で置くかすればよい。

“We heard noises upstairs like pool tables being turned over and breaking,” one band member said.〈新聞〉[5)]

また、これらの名詞は感覚を表す「見る」や「聞く」等の動詞とともに現われることが多いのであるが、具体的にそういう状態を「見た」とか「聞いた」とかを表現するので、動詞が“了”や「結果補語」を伴うことが多い。未知の情報だからこそ「修飾」が必要となり、“了”や「結果補語」を伴って新しい状況の出現を述べる。つまり、定語の働きを十分に果たすことになる。

2.1.1.2 「という」を必要とする名詞

15 研究所はむしろ郊外に設置したほうがいいという意見を出した。(提出了研究所最好设置在市郊的意见。)〈关〉

16 自分で自分を殺すべきだという考えが起こります。「こころ」(……，又产生了应该自己杀自己的念头。)

17 その感じには手柄をしたという誇りと罰を受けたという恨みとが交じっていた。「こころ」(……，而且在这种感想里掺杂着建立了功绩的自豪和受到了惩罚的怨恨。)

18 彼女はすぐ彼のもとに嫁ぎたい希望を保護者に打ち明け

た。「路」(她立刻对保护人公开提出了要嫁给他的心愿。)

19　彼は医者にはならない決心をもって、……。「こころ」(他抱着个绝对不做医生的决心,……。)

20　私は長く故郷を離れる決心をその時に起こしたのです。「こころ」(我在那时候下了永远离开故乡的决心。)

思考や発言に関する名詞は必ず「という」を必要とするのであるが、一部、述部の動詞が現在形や過去形をとるときに限り、「という」を付けなくても成立するものがある、と寺村秀夫氏は述べている。[6)]例文では、18, 19, 20が「という」無しの連体修飾であり、15—20まですべて中国語でも定語の形をとっている。つまり、"的"と「という」が対応しているものと、対応していないものがあるということになる。だがこれらについては、日本語側からの条件が起因している。つまり、例文 15では、「むしろ……ほうがいい」を含むために「という」を必要としている。例文 16では、「殺すべき」という「べき」が強いムードを保有するために「という」が必要であるということである。

さて、ここで次の例文をみる。

21　他决心永远在不愉快中生活。〈路〉(彼は、いつまでも不愉快の中で、起臥する決心をした。)

22　我在那时候下了永远离开故乡的决心,心里发誓:绝不再见叔父的面。〈心〉(例文 20の再録)(私は、長く故郷を離れる決心をその時に起こしたのです。叔父の顔を見まいと心のうちで誓ったのです。)

例文 21では、「いつまでも不愉快の中で起臥する決心」と日本語では、連体修飾になっているのに、中国語では、定語の形をとっ

ていない。例文22では、「長く故郷を離れる決心」とやはり日本語で連体修飾になっている。中国語ではどう訳されているかとみると、"的"を伴って定語になっている。

例文21,22とも本来「という」の介在を必要とする被修飾名詞をもつものであるが、前にも述べたように、「という」を介在させなくてもよい場合がある。例文21,22の修飾部にはムードを表すものが存在しない。そのため、ここで問題にしたいのは、"的"を伴って定語になるとかならないとかということは、どういうことに起因するかということである。

ここで、例文21のように"的"が用いられず、定語の構造をとらないものを甲タイプ、例文22のように"的"を伴って定語の構造をとるものを乙タイプとして、両タイプの相違について、構造とその表す意味から考察する。

大河内康憲(1983)に以下のような説明がある。

「死ヌ決心」の「死ヌ」は「決心」の内容である。この種のものも中国語で連体修飾になりにくい。

次に例文をあげる。

23　その時、死ぬ決心をした。23を中国語に訳すと、

a　那时，我下定决心要死。

b　那时，我下定要死的决心。

aの方が一般的であり、bのように"的"を伴って定語となることはないそうである。ここでは、aが甲タイプ、bが乙タイプであるが、実際の翻訳小説では、乙タイプのような例は見いださ

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com